共生委員会ニュース

ともしび

2023 年度　第 2 号

2023 年 9 月

共生探究学習委員会



秋のグローバルウィーク始まる！

今年度の秋のグローバルウィークは、9月 25 日（月）～29 日（金）に実施されます。
昼休み・放課後に様々なイベントが開催されるほか、礼拝でも関連するお話を伺います。
また、中等部の合同フォーラムや来月にかけての催しなど、枠に収まらないビッグイベントとなります。
ぜひご参加ください！

《主な企画》

◎9月2日（火） 昼休み「東ティモール コーヒー試飲会」@ウッドデッキ
◎9月26日（火） 16時「中・高等部合同国際フォーラム」@大学16号館2階 16202教室

【講師】小高芳宗氏（ホテル三日月社長）・川島ゆか氏（日本航空 チーフキャビンアテンダント）
※校内ポスターにあるQR コードで事前申し込み→15：45 ポルティコ集合

◎9月28日（木）放課後「宮古訪問プログラム FOR 会」@小教室北 A
◎10月3日（火）放課後　「ウクライナの子どもたちと遊ぼう！」@大教室
◎10月中旬（予定）「ビッグチャットルーム」





宮古訪問プログラム 実施報告

３年 S.M.

今年の宮古訪問プログラムは、去年と同様に、２泊３日で岩手県宮古市を訪問しました。

１日目はまず浄土ヶ浜に行き、たくさんのうみねこに囲まれながら、国の名勝にも指定されている海の景色を堪能することができました。また「三陸復興国立公園　震災メモリアルパーク中の浜」という、実際に津波の被害に遭った建物がそのまま残されている公園では、被災前の建物の写真と被災後の実物を実際に見比べることができ、改めて津波の恐ろしさを実感することができました。次に、「学ぶ防災」では、東日本大震災の被災者であるガイドさんのお話を伺いました。当時の避難場所であった高台に実際に登ってみたり、津波の跡が残っている塀や建物の壁などを目の当たりにし、津波がどの高さまで到達したのかを実感できたりと、震災当時の様子を詳しく体験することができました。また、被災場所でもある「田老観光ホテル」では、そこでしか見ることのできない津波の動画を見ました。今まで見たことのある津波の動画の中で、車や家などの建物があっという間に波に飲まれていく様子が一番鮮明に写されていて、数ある宮古訪問プログラムでの経験の中でもかなり印象に残ったことを今でも覚えています。

２日目は、岩手県立宮古高等学校の生徒の方々と交流をしました。自己紹介やお互いの学校生活について軽くお話しして打ち解けた後、「東日本大震災が発生した際何をしていたか」「震災に備えて自分の家庭はどのような対策をとっているのか」についてグループでディスカッションを行いました。話し合った結果、宮古高等学校の生徒の方々は、青山学院高等部の生徒よりも災害に十分に備えているご家庭が少ないことがわかりました。宮古は比較的地震が多い地域のため、当然災害対策も万全だろうと思い込んでいた私はとても驚きました。「学ぶ防災」のガイドさんが仰っていたように、宮古の人たちは地震に慣れてしまっているため、弱い地震が来ても逃げようとしない、という事実に近いのではないかと感じました。このように、普段全く関わりのない異なる地域の同世代の方々と交流をすることができ、とても良い 経験になりました。そのあと、災害公営住宅にお住まいの方々に直接お話を伺いました。当時の体験談を積極的に話して下さった方がいた一方で、あまり話したがらない方もいらっしゃったことが印象的で、普段被災者の方のお話を伺えることは当たり前でないことに、強く気付かされました。

３日目は、宮古市役所にて山本市長と面会し、インタビューをさせて頂きました。時間が足りなくなるくらいたくさんのお話をして下さる山本市長を見て、宮古市への熱い想いがすごく伝わり、感動しました。また『岩手日報』の記者の方にもお話を伺いました。記者にしかわからない、被災者への取材の辛さや、震災直後の取材や記事を書くことの大変さがよくわかった一方で、どんなに辛くても、たくさんの人々に情報を伝えたいという強い想いから、記事を書き続けたというお話を伺って、責任感の強さに胸が熱くなったのを今でも覚えています。

震災について学ぶことができただけではなく、宮古の特産品であるワカメの茎取り体験をしたり、名物である美味しく新鮮な海鮮料理を頂いたりと、宮古市だからこそできる素敵な経験ができた、とても充実した３日間でした。これからも、宮古市で学んだことを自分から発信しながら、復興に関わって行きたいと思います。



